

「チュラーロンコーン大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学経済学部 4年 山口裕也

- ① 学習成果（今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど）

今回のプログラムの大半がタイ語の講座だったこともあり、一番の学習成果はタイ語の基礎を習得できたことである。これは文字通り、タイ語の基礎が身に付いたということにとどまらない。英語以外の外国語を体系的に学ぶチャンスはあまりなく、これを通して他の言語を学ぶ必要性が出てきた時に今回の経験はいきると思う。また、日本語を教える機会があったとき、日本語を学んでいる人と交流する時にも役に立つのではないかと思う。さらに教育に関心を持っている自分にとって、そもそも新しい言語をどのように教えるのかを知ることができた点も収穫である。また、海外留学、海外交流への興味関心についてはさらに上がったと言える。今回はタイの学生にタイの魅力の数多く伝えてもらったが、この逆のことをしたいと思うようになった。実際に帰国の翌日からタイのタマサート大学からサマースクールで京都大学に学生が来ていたため、彼らと一緒に授業を受けたり、京都の観光地を案内したりして、今度は日本の良さを伝える役目に回った。

- ② 海外での経験

今回、日中のプログラムの大半はタイ語講座ではあったものの、放課後はタイの学生にバンコクを案内してもらったり、現地の料理を紹介してもらったりした。個人的にバンコクには旅行で行ったことがあったが、現地の人に付きっきりで案内してもらえたことで、旅行者だけでは絶対に行き着けないようなところにたくさん行くことができた。これが旅行と留学の大きな違いで、留学の醍醐味だと思う。また、日本に興味を持ち、日本語を必死に学んでいる学生と2週間過ごすのは日本人としていい刺激になった。もっと自国や自分の言語について関心をもたなければいけないと思うことが何度もあった。

- ③ プログラム内容

上記でも述べた通り、プログラム内容の大半はタイ語講座である。しかし、その他にも豊富なプログラムが提供されていた。例えば日本語の授業への参加、タイの宗教や文化に関する講義、そしてアユタヤや王宮への訪問などである。日本語の授業への参加を通して感じたのは、彼らの外国語の習得能力の高さ、またそれを支える教育制度のクオリティーの高さである。大学に入学して数ヶ月しか経っていないにも関わらず、ある程度日本語が話せる人、そしてそこからさらに1年経つとその能力が大幅に向上していることに驚かされた。これは日本が見習うべきことである。また、文化講義や名所訪問を通して感じたのは、タイ人にとっての宗教の重要度である。タイ人の生活と宗教が密接な関係にあることを再認識した。

- ④ 進路への影響について

すでに卒業後の進路は配属部門も含め確定していたので、大きな影響はないが、機会があればタイをはじめとする東南アジア諸国関連のビジネスに積極的に携わりたいと思うようになった。